

1. 評価結果概要表

作成日 平成 22年1月8日

【評価実施概要】

事業所番号	0174700864		
法人名	有限会社ひまわり		
事業所名	グループホーム士幌ひまわり館		
所在地	〒080-1200 北海道河東郡士幌町字士幌西2線166番地の10 (電 話) 01564-5-5122		
評価機関名	社会福祉法人北海道社会福祉協議会		
所在地	札幌市中央区北2条西7丁目1番地		
訪問調査日	平成21年12月14日	評価確定日	平成22年1月8日

【情報提供票より】 (平成21年11月1日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	昭和(平成) 15年 9月 16日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	8 人	常勤 7人, 非常勤 1人, 常勤換算	7.05人

(2) 建物概要

建物構造	木造	造り
	1階建ての	1階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	24,000 円	その他の経費(月額)	17,000~22,300 円
敷 金	有 (円)	無	
保証金の有無 (入居一時金含む)	有 (円)	有りの場合 償却の有無	有 / 無
食材料費	朝食	円	昼食 円
	夕食	円	おやつ 円
	または1日当たり		850 円

(4) 利用者の概要 (12月 14日現在)

利用者人数	9 名	男性 1 名	女性 8 名
要介護1	3 名	要介護2	4 名
要介護3	2 名	要介護4	0 名
要介護5	0 名	要支援2	0 名
年齢	平均 83.8 歳	最低 60 歳	最高 90 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	士幌町国民健康保険病院、神山歯科医院
---------	--------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

町内唯一のグループホームである当事業所は特別養護老人ホームなどの福祉施設が集合した一角に位置し、商店街も近い。利用者の全居室はすべて南側に面し、トイレや洗面台も完備している。事業所は職員研修に積極的であり、職員も理念を理解し、質の高いケアに取り組んでいる。地域の行事に参画し、利用者が採った山菜の漬けものを祭りで提供するなど生きがいをしている。また、地域に根ざした事業所づくりに、多くのボランティアが参加している。

【重点項目への取組状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	<p>前回評価の課題である地域との交流については、地域行事に参画してから関係が深まり住民との交流もある。また、多くのボランティアが参加している。</p> <p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>全職員が外部評価を参考にして自己評価に取り組み、全体会議で検討して問題点を共有し、管理者が取りまとめている。</p>
重点項目②	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)</p> <p>運営推進会議はおおむね2ヶ月に1回開催し、利用者の生活状況、事業所の行事案内や報告、自己評価や外部評価の報告、消防訓練実施や結果を報告して討議し、助言を得ている。討議内容は議事録にまとめ、職員会議で話し合い改善に取り組んでいる。</p>
	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)</p> <p>利用者一人ひとりの担当職員が月1回利用者の生活状況を手紙に書き、事業所便りや小遣い出納帳のコピーを同封して、家族の来訪時の手渡しや郵送により報告している。また、事業所内に苦情相談窓口を設けており、重要事項説明書で士幌町地域包括支援センターや北海道国民健康保険団体連合会に苦情相談窓口があることを知らせている。</p>
重点項目③	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
重点項目④	<p>町内会に加入し、祭りや花火大会、盆踊り大会などの地域の行事や社会福祉協議会のふれあい広場などに積極的に参加している。祭りには利用者が採った山菜の漬物を販売し、利用者の生きがいづくりにもなっている。町内会に事業所便りを配布して事業所内の行事の参加を呼びかけるなど地域との交流を図っている。</p>

2. 評価結果（詳細）

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念の共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	利用者が「家庭的な環境の中でその人らしく豊かな生活が出来ることを援助する」という独自の理念をつくり掲示している。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	職員は毎朝のミーティングや職員会議で理念にもとづく介護をしているかを確認し、理念を共有するように努めている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	町内会に加入し、地域の行事や社会福祉協議会の行事に積極的に参加している。町内会に事業所便りを配布して事業所内行事の参加案内を呼びかけるなど、地域との交流を図っている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	全職員は外部評価を参考にして自己評価を行い、全体会議で協議し、改善に向け取り組みにつなげている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は、おおむね2ヶ月に1回開催し、利用者の生活状況、事業所の行事案内、自己評価や外部評価の報告、消防訓練実施結果などを討議し助言を得ている。討議内容は議事録にまとめ職員会議で話し合い改善に結びつけている。		
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	事業所に町の福祉担当出先機関が隣接しており、町主催の研修に参加するなど連携を図っている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	利用者一人ひとりの担当職員が月1回利用者の生活状況を手紙に書き、事業所だよりや小遣い出納帳のコピーを同封して家族の来訪時に手渡したり郵送したりして報告している。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族の来訪時や電話などで要望や意見を聴いている。また、事業所内に苦情相談窓口を設けている。また、重要事項説明書で士幌町地域包括支援センターや北海道国民健康保険団体連合会に苦情相談窓口があることを知らせている。意見や苦情などがある時は全体会議で討議して改善に努めている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員の異動はごく少数であるが、異動がある時は新職員と退職予定職員が重複して勤務し、利用者へダメージを与えないように配慮している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	管理者は、事業所内研修を2ヶ月に1～2回実施している。さらに、職員は地域の研修にも参加し、サービスの質の向上に努めている。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	事業所は十勝地域のグループ協議会に加入しており、協議会を通じて事業所の見学や実務研修、交流会などに参加してサービスの質の向上に努めている。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	利用予定者や家族に事業所のサービスを説明し、事前見学を行い事業所の雰囲気徐々に馴染めるように配慮している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	事業所は職員と家族がともに利用者を支えあう一員であることを伝えて協力を得ている。利用者が料理や畑、花壇づくり、山菜採りなど、日々趣味を活かした生活ができるように支援している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者一人ひとりに担当職員を置き、日々の暮らしの中で信頼関係を築き、意向の把握に努めている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	職員会議で利用者一人ひとりの担当職員の意見と利用者や家族の意向を参考に、利用者本位の介護計画をセンター方式を採用して作成している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護計画は4ヶ月に1回見直しをしている。また、毎日のモニタリングで利用者の体調に変化があれば利用者や家族と相談したり、主治医の指導を得て現状に即した介護計画を作成している。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	家族の申し出により遠方の通院送迎、入院時の面談、行事や外泊の送迎など柔軟に対応している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	家族の申し出により利用者のかかりつけ医の受診送迎を行い、必要により立会いも行うなど支援している。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	体力の低下した利用者の家族と重度化した場合の対応について話し合い、かかりつけ医と相談して職員と今後の方針について共有している。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	毎朝のミーティングや職員会議でプライバシーの保護について確認し、個人情報の取り扱いについて職員研修で徹底している。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	日課にこだわらず、ドライブ、散歩、趣味などの利用者一人ひとりの希望にあわせて支援している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者と相談しながら、職員が季節感のある献立をたてている。また、買い物、調理、配膳、後片付けなど職員と一緒にしている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めず、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	週4回入浴日があり、利用者の希望する時間帯に全員が入浴できるように支援している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	利用者一人ひとりの生活歴や趣味を活かし、雑巾縫い、畑、花壇、編み物、パークゴルフ等体力などに応じた支援をしている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさず、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	利用者は散歩、ドライブ、買い物、パークゴルフ、温泉、山菜採りなどほぼ毎日外出している。冬季間は隣接の体育館内の外周を散歩するよう支援している。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	職員は鍵をかけないケアについて理解している。防犯上の理由から夜間は施錠している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	消防署の指導を受け、春秋の年2回消防訓練を実施している。また、災害に備え、水など緊急持ち出し用具などの準備をしている。		
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	利用者が必要な水分量を確保できるように配慮しており、利用者の体調の状況により水分確保のチェックを行い記録している。食事は全員分をチェックして記録している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用部分に季節の花や飾り付けをし、壁には行事の写真を展示し、利用者が生活感や季節感を味わえるように配慮している。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には利用者一人ひとりの好みの家具や用具を置き、利用者が居心地よく過ごせるように支援している。		

※  は、重点項目。